

EXPO × OPEN FACTORY



経済産業省
近畿経済産業局



オープンファクトリー

Open Factory

見せる側
Sender

オープンファクトリーとは、Open（＝開く）とFactory（＝工場）の造語であり、一般的にイメージしやすいのは「工場見学」という言葉。

「付加価値を創り出す現場」

令和2年度調査※により、「工場見学」は見る側を主語とした言葉であり、「オープンファクトリー」は見せる側を主語とした言葉として整理。

※令和2年度 関西におけるオープンイノベーションを創出する地域一体型オープンファクトリーの発展可能性事例調査

見る側
Viewer

工場見学

Factory-Tour

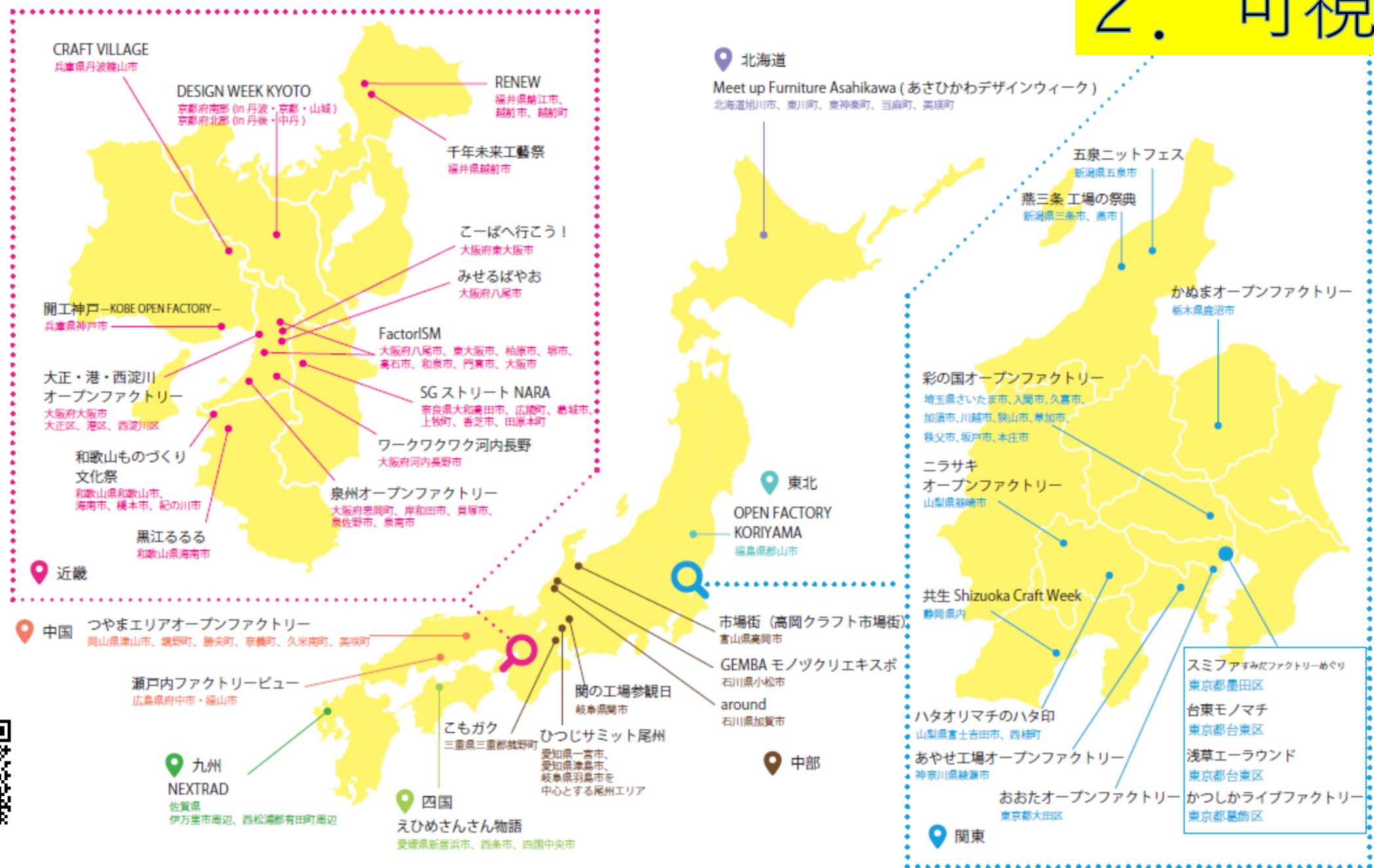
1. 要素化

2. 可視化

3. 活性化



2. 可視化





FactorISM



CORE VALUE

こうばはまちの エンターテイメント

- EVENT DATA -

開催年 : 2020年
開催回数 : 3回
開催期間 : 例年 10月第4日開催
参加企業 : 60社
来訪者数 : 9,000人以上 (リアル参加者)
主催 : まちのこうほう (FactorISM 実行委員会)

FEATURES

FactorISM アトツギたちの文化祭

「FactorISM (ファクトリズム)」は、「こうばはまちのエンターテイメント」を合言葉に、参加企業と来場者、地域一体でつくるオープンファクトリーイベントである。ものづくりの現場を公開し、視野に誇る日本のものづくりを五感で体験、体感してもらう文化祭のようなイベントである。

3年目となる2022年は「触覚」をテーマに、参加企業と地域が連携して開催された。なお、FactorISM (ファクトリズム) は、Factory = こうば、ISM = 土壌・土質、Tourism = 観光を組み合わせた造語である。

FUTURE

来る 2025 大阪関西万博を見据えて

来る2025大阪・関西万博を目前に、イベントの認知度をさらに高め、参加したいと考える企業やイベント来場者を増やしていく。

また、世界に向けて「こうばはまちのエンターテイメント」というムーブメントを広げていくとともに、中小企業のものづくり技術・技能を地域ブランドとして確立させ、海外に発信していく。これらを通じて、こうばで働く人、それからこうばがある地域の人々、それぞれが誇りをもって、こうば・まちで活躍し、持続可能な社会・経済システムづくりへの貢献に繋げていきたい。

TEAM EXPO 2025 共創チャレンジ登録

「FactorISM」実行委員会は、こうばをこの場でつくります。それぞれの想いを広げることで、ものづくりと地域の「アイコン」を共に創り出す。共創可能なものづくりや、ものづくりを軸としたエンターテインメント化する「モノづくりイノベーション」を実現します。

INNOVATION

障壁を超えた、新たなコラボレーションへの「刺激」

FactorISM は2020年開始以降、開催地域、参加企業数が年々拡大している。参加した企業からは、「普段他の企業の方と知り合う機会がなく、FactorISMを通じて知り合った他社のオープンファクトリーも見学できた」、「スタッフが試行錯誤して取り組んだこともあり、成長に繋がった」といった声や、「イベントをきっかけに、他のおもしろい企業を知ることができた。コラボ企画にも挑戦したい」という新たな取り組みに向けて、モチベーションを高めている。

また、参加企業同士の交流に止まらず、「こうばのんしゅ FactorISM in 近鉄電車」、「興業会大阪府立中之島図書館」の実現など、外部機関とのコラボレーションも増えてきている。

FactorISM は単なるイベントではなく、コミュニティである。年に一度の「FactorISM アトツギたちの文化祭」だけでなくとどまらず、通年で様々なものづくり体験プログラムを展開するとともに、大企業や異業種とのコラボレーション、地域を越えたネットワーク構築、大学生の職業観の醸成など、まちの未来を創造する活動へと進化を続けている。

●事務局連絡先

FactorISM 実行委員会
〒581-0803 大阪府八尾市南河内3-4-0 リノアビル
TEL. 072-920-7128 (株式会社みせまるばや)
email: mach@mkbrn.bay.jp

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



MATSUO YASUHI
松尾 泰貴 氏

・株式会社友安製作所
ソーシャルデザイン部担当 執行役員
・FactorISM 総経プロデューサー

元八尾市議員。「みせるばや」の立ち上げに尽力。ものづくりのまちである八尾を広く知ってもらおうと、子どもたちにもづくりの楽しさを伝えるワークショップや、企業間の交流を促進するためのイベントなどを実施している。地方公務員アワード2019を受賞。現在、友安製作所にまちづくり事業を立ち上げ、民間人としてもまちづくりに貢献中!

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

FactorISM
実行委員会事務局
(まちのこうほう)



実行委員長
太田 泰道 氏
株式会社友安製作所



総経行委員長
友安 哲則 氏
株式会社友安製作所



専任部長
福田 康一 氏
株式会社河辺商会

同業も業種も異なるメンバーが、「まちのこうば」をエンターテインメントに変える!を合言葉に、触覚、聴覚、視覚の生活を支え、暮らしを豊かにしてくれている日本人のものづくりの誇りをし、面白さももったくさんの人たちに知ってもらい、後輩にバトンを渡していきたいという思いを一つに結んでいる。



門真市長
一瀬 真樹 氏
株式会社一瀬製作所



八尾市長
梶原 弘隆 氏
株式会社キープ

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS



事務局長
山田 隆也 氏
株式会社ビーゴッシュ
代表取締役社長



VEEZ デザイナー
野村 龍仁 氏
株式会社ジョイントメディア
企画・デザイナー/営業



総経行員
寺田 昌樹 氏
株式会社視覚情報社
プロデューサー

ともにあゆむ

SPECIAL THANKS

株式会社河辺商会
ヤマト運輸株式会社
錦城産業株式会社
株式会社友安製作所
株式会社キープ
シルバー株式会社

株式会社 ManotaRO
堺商工会議所
株式会社一瀬製作所
南海電気鉄道株式会社
近畿日本鉄道株式会社
シャープ株式会社

TRIGGER & STORY 誕生秘話

開業エリアとなっている八尾市には「みせるばや」や、門真市には「もりかど産業支援機構ネットワーク」、堺市には「さかいセカンドスタートアップ」というそれぞれの事業を通じて市役所産出者や地域企業群との関係性が構築されており、当該市役所担当者が驚き手となって始まったのがFactorISM。ちなみに、当該担当者は近畿経済産業局への出向経験を通じて驚きを有していた。

そして、お互いの地域で運動する企業の可視化とエリアを超えた交流を実現するため「オープンファクトリー」という切り口で支援方法を考え、役所の垣根を超えた広域の実行委員会が立ち上がり、現在の礎となっている。

TOPICS

FactorISM のシンボルデザイン

FactorISM のシンボルデザインは、イベントのサブコピー、「アトツギたちの文化祭」の「アトツギ」に着眼したものである。アトツギたちはリレーのバトンを渡された人と捉え、バトンを使ったシンボルで表現している。FactorISM のロゴにある5つのシンボルは、5種類のバトンであるとともに、人の五感も表現している。「音の響き」、「味の刺激」、「手で触れた触感」、「視野」、「匂い」をイメージし、これらが毎年の共通テーマとなっている。参加企業が共通テーマのもと、それぞれの企画内容を検討・開催することで、イベント全体の統一感を生み出している。



(写真) 工場見学・ワークショップ体験の様子



3. 活性化

各地のキーパーソン、大企業、クリエイティブパーソンが交わる場を創出することで、ナレッジシェアによる「触発」を生み出し、様々な観点で活性化を実現。(フォーラム・ビジットツアーなど)

※下線はLocal Xと併催のもの

【フォーラム】

関西オープンファクトリーフォーラム

1. 2019年8月 (オカムラ)大阪市
2. 2020年2月 (ワコール)京都市
3. 2020年12月 (行政)八尾市
4. 2021年3月 (オカムラ)大阪市
5. 2021年9月 (南海電鉄)大阪市
6. 2021年10月 (行政)西脇市
7. 2021年10月 (行政)八尾市
8. 2022年1月 (行政)大阪市大正区
9. 2022年2月 (KRP)京都市
10. 2022年9月 (行政)丹波篠山市
11. 2022年10月 (行政)八尾市
12. 2022年11月 (行政)和歌山市
13. 2023年2月 (KC)大阪市
14. 2023年3月 (NTT)大阪市
15. 2023年7月 (池泉)大阪市
16. 2023年8月 (行政)越前市
17. 2023年10月 (行政)八尾市
18. 2023年12月 (りそな)大阪市
19. 2023年12月 (KC)大阪市

Local X Forum

1. 2023年8月 (行政)越前市
2. 2023年10月 (行政)八尾市
3. 2023年11月 (行政)東かがわ市
4. 2023年12月 (会議所)桐生市
5. 2023年12月 (行政)遠野市
6. 2023年12月 (KC)大阪市
7. 2023年12月 (行政)東京都渋谷区
8. 2024年1月 (行政)新庄市

東北オープンファクトリーフォーラム

1. 2023年1月 (行政)二戸市
2. 2023年2月 (行政)郡山市
3. 2023年12月 (行政)遠野市
4. 2024年1月 (行政)新庄市

四国イノベーションフォーラム

1. 2023年1月 (行政)高松市
2. 2023年11月 (行政)東かがわ市

ヒューマン・ビジット

1. 2021年11月 京都・亀岡・宇治市
 2. 2023年12月 貝塚・泉佐野市
 3. 2024年1月 堺市
 4. 2023年3月 八尾市
- ※大企業人材等を20名程度連れて各地を訪問



EXPO酒場 × オープンファクトリー

- ・ 2023.11.17 (Fri.) EXPO酒場 郡山店 (KORIYAMA OPENFACTORY)
- ・ 2023.11.4 (Sat.) EXPO酒場 堺店 (FactorISM)
- ・ 2023.7.13 (Thu.) EXPO酒場 和歌山店 (和歌山ものづくり文化祭)
- ・ 2023.2.28 (Tue.) EXPO酒場 八尾店 (みせるばやお)



引用：WORK MILL HP
<https://workmill.jp/jp/webzine/demo-expo-yao/>



引用：山家漆器店 HP
<https://www.prinmail.com/1330>

万博会場外でも自社をPRしよう！ (地域一体型オープンファクトリー)

- 近畿経済産業局では、ものづくりに関わる中小企業や工芸品産地など、一定の産業集積がみられる地域を中心に、企業単独ではなく、**地域内の企業等が面として集まり、地域を一体的に見せていく取組を「地域一体型オープンファクトリー」と定義し、多くのビジネスパーソンが訪れる2025大阪・関西万博の「プラスワン」として可視化し、各地との協力関係の構築と共に、ビジネスチャンスとして発展させることを目指します。**

出典：公益社団法人2025年日本国際博覧会協会・公式サイト

万博会場



「OPEN FACTORY REPORT 1.0」
を2023年3月に公表し、全国39事例
を掲載 (2024年春更新予定)



各地との連携

出典：2025年大阪・関西万博アクションプランVer.4

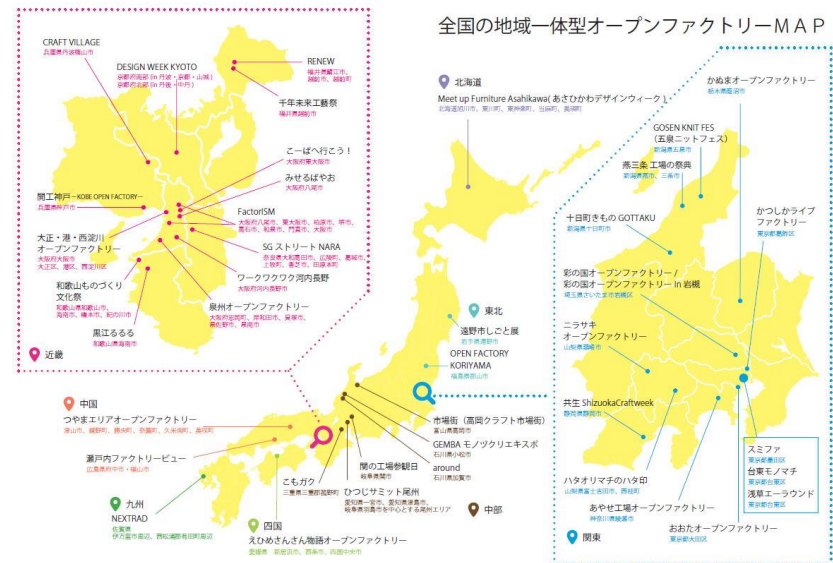
関西発「ワザ」と「コンテンツ」の未来体験フェスティバル

①実施概要
「個人が得意にできるもの」を軸に、その生活をより豊かなものにしていく。世界に誇れる日本の伝統工芸等の「ものづくり」を体験・体感できる施設として、近畿圏の展示・イベントを実施する。会場は、大阪のオープンファクトリーと2025年大阪・関西万博の会場を軸とする。また、各地のオープンファクトリーでは、企業等が積極的に参加し、工場見学や体験型展示など、多岐にわたるイベントを実施する。会場には万博会場や施設に近接したエリアを、世界中の来場客に手を届かせる。会場には各産地・工場での展示、万博も活用する。これらを実施し、双方の魅力を最大限に活かす。万博の「ものづくり」の魅力を最大限に活かす。万博の「ものづくり」の魅力を最大限に活かす。万博の「ものづくり」の魅力を最大限に活かす。

②今秋の実施方針
そのための中小企業・産地に対する万博推進の取り組み。そのための中小企業・産地に対する万博推進の取り組み。そのための中小企業・産地に対する万博推進の取り組み。そのための中小企業・産地に対する万博推進の取り組み。

③予目
「ものづくり」の魅力を最大限に活かす。万博の「ものづくり」の魅力を最大限に活かす。万博の「ものづくり」の魅力を最大限に活かす。万博の「ものづくり」の魅力を最大限に活かす。

④工程表
2023年度：ものづくりの魅力を最大限に活かす。万博の「ものづくり」の魅力を最大限に活かす。万博の「ものづくり」の魅力を最大限に活かす。万博の「ものづくり」の魅力を最大限に活かす。
2024年度：ものづくりの魅力を最大限に活かす。万博の「ものづくり」の魅力を最大限に活かす。万博の「ものづくり」の魅力を最大限に活かす。万博の「ものづくり」の魅力を最大限に活かす。
2025年度：ものづくりの魅力を最大限に活かす。万博の「ものづくり」の魅力を最大限に活かす。万博の「ものづくり」の魅力を最大限に活かす。万博の「ものづくり」の魅力を最大限に活かす。



オープンファクトリーの要素を含めた「催事会場」の企画検討